

「ライオン池のプランクトン (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

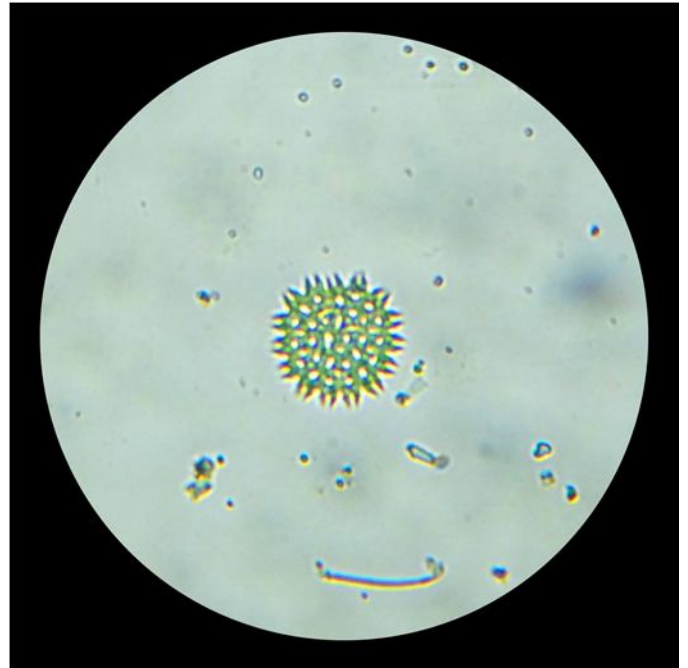
メダカの成長の単元で、ほとんど必ず取り入れられている活動に「プランクトンの観察」がある。自然界でのメダカの餌は何か・・・ということを実際の観察から理解させることがねらいである。淡水生のプランクトンは、池や田んぼ、水たまりや水槽の中にも自然発生している。教材の入手にはあまり困らないが、子どもたち自身の手で採取するのが一番良い。



幸い、本校の校庭には、「ライオン池」という「壁池」があって、ビオトープとして整備されている。整備されているといっても、どちらかといえば、風致された池で、狭いながらも実に多様な生物相が見られる。



これは観察の定番、ミジンコ。「ネコゼミジンコ」の一種だろう。動きも面白い、人気がある。



植物プランクトンも豊富だ。その中でも、ミカヅキモと並んで人気が高いのが、この「クンショウモ」である。都研で純粋培養されたのを譲ってもらえば簡単だが、ライオン池の中から探し出すのが、希少性がある良い。この日は、1個体しか見つからなかった。



この日の大発見は、この「池モン」(池モンスター)である。最初は「先生、ハエがいる！」から始まった。よく見ると「ヤゴ」であった。トンボの幼虫も、最初は顕微鏡サイズなのだ。面白かった。(つづく)